

いわて生協 花壇づくりバスボランティア

いわて生協コープ・ボランティアセンター(CVC)は、46回目を迎えるバスボランティアで、花の球根などを花壇に植える活動を11月19日、陸前高田市広田町で行ないました。これまでのボランティア活動といえば、ガレキや泥上げ、草刈りなどの作業がメインでしたが、被災地にレクレーションができる広場をつくり、周りに花壇や植え込みを作るといふ、復興にもはずみがつきそうな楽しい取り組みとなりました。

広場を作ることになったいきさつについて、いわて生協総務人事チーム教育人事グループの畠山正昭(はたけやま・まさあき)さんは「仮設に移った地主の方より、みんなが集えてお話や運動ができる場所が欲しいというお話があって、この広場作りにつながりました。約2カ月間、ボランティアによる継続した作業があり、1つのものを作るという、全く初めての珍しい取り組みです」と言います。このきっかけは、このバスボランティアに継続して参加している杉山友子(すぎやま・ともこ)さんが、地主さんとの何気ない会話で「仮設に移ってから住民は外に出なくなり、引きこもってしまい、話をする 것도 少なく運動不足にもなっている」と聞き及んだことがありました。

入り江に面した広田町は、海に近い農地や住宅が津波で壊滅しました。恒久計画がない中で、ガレキを片付けても海が近いことから、かさ上げなどをしないとおそらく家は建てられないだろうといわれているところです。そんなところでも1年でもいいから皆が集えるコミュニティが欲しいということで、自分たちの土地に自分たちで何とかしようと考え、生協と一緒にパークゴルフ場やゲートボール場のある球技場「みんなのふれあいひろば」をつくることになったのです。

バスボラの参加者の中には建設業の方など、様々な職種の方がいて、広場の設計だけでなく、ボランティアセンターで借りた重機の運転ができる方もいました。現地の方々とも話し合い、大きなプロジェクトとになっていきました。10月中旬から、まだ家の土台が残っていたり自動車が転がっているような状態の被災地で、ガレキを片付けて整地をし、続いて球技場をつくる一貫性を持った取り組みがすす



球根を植える参加者たち。100人ほどで植えた。

められました。いわて生協 CVC のバスボランティアがない日は、その中の継続参加者が自主的につくったグループ「えんやこらさ岩手支部」が入って途切れないように整備を続け、広場の完成がせまってきました。

そして、整地作業が進み球技場を囲むように花壇と植え込みをつくることになりました。その中で、ボランティア活動のつながりで、県内に花と緑の支援をしているボランティア団体「希望の花いわて」からチューリップなどの球根と花の苗の寄付を得られることにな

り、花壇作りが実現しました。植え付けに先立って、広場の上の高台にある高田高校広田分校仮設住宅の皆さんに、「一緒に球根を植えませんか」と参加を呼びかけるチラシを配布しました。

ここで交流を広げるためにも仮設住民の参加を呼びかけたと畠山さんはいいます。「この広場作り計画は急に決まったものですが、この2カ月弱の作業には延べ人数で600人近くボランティアが参加しています。しかし今はバスボランティアでここに来るのはほとんど県外の方です。被災した岩手県でバスを継続して出している民間団体は生協くらいで、規模が縮小しているのです。そんなこともあって、今まではなかった、仮設の方へ一緒に作業をしませんかと呼びかけを行ないました。前回ボランティアに来たときに、チラシを仮設に配布して、今日の作業を呼びかけたのです。また、今日たまたま近くでコープいしかわさんがボランティアでやっていた炊き出しを利用される方にも声をかけました。そして、参加いただいた皆さんにチューリップの球根(10球)を記念に配布し、仮設の庭に植えてくださいという案内もしました」

「ボランティアの作業中に通りすがりの住民と挨拶をすることはあっても、初めのころは交流はありませんでした。でも続く作業の中で顔なじみの方もできて、少し交流が持てるようになりました」と杉山さんはいいます。

「広田町が復興をすすめていく足がかりのようなものなれば、仮設の方々の作業への参加は本当にいい機会になります。私もその支えの一つになればいいと思っています。この共同作業は本当にいい方向に進んでいます」といいます(杉山さんはバスボラがない時でも、有志を募って盛岡から毎日のように自ら車を運転して広場の整備に通った強者です。=えんやこーら岩手支部)

その結果、当日はいわて生協バスボラから76人、コープいしかわと一緒に来た金沢大学の学生ボランティア約30人に加え、仮設の住民20人近くを合わせて100人近くが参加する大変にぎやかな花壇作りになりました。

この日はあいにくの雨模様でしたが、適度な湿り気のある植栽日和。午前中に球技場の整備をして午後から植え付けをしました。まず「希望の花いわて」の吉川三枝子代表が花の苗や球根の植え方を実演指導しました。球根のばら植えと称して、たくさんの球根を一気にばらまくと歓声があがりました。花壇にばらまかれた球根を一個一個植える作業に約百人が取り組んだ姿は壮観でした。植え終わって仮設住宅に帰られる方に話を聞くと「今までの公園は草木ばかりで花はなかったのよ。こうして花畑ができて春になるのが楽しみです」といって喜んでいました。



大きい石を拾って、ひろばを整備。